

関西で進む草の根ICT活用

ブロードバンド先進地域とされる関西圏では、利活用においても草の根的なおもしろい取り組みが多い。最新ICTを駆使したイベントやコミュニケーションの模様を取材した。

(北島圭)

第15回国際電腦ひな祭り2012 in 京都が12日(月)、京都市伏見区で開催された。主催は電腦ひな祭り2012実行委員会(実行委員長は服部真湖氏)、事務局は老テック研究会。京都を拠点にするNPO花パソコンと大阪拠点のNPOきんきうえぶ、NPOブロードバンドスクール協会、メロウ倶楽部、そしてオーストラリアのシニアネットの協力で実施された。

電腦ひな祭りとは、パソコンクラブで活躍する女性たちのネット文化交流会で、今回は、オーストラリア・シドニーのシニアに対して日本のひな祭りをスカイプやテレビ電話を使って紹介。また佐賀市のシニアネットと情報交換を行った。

縮めくりにには、現在ユーザーチームで展開中のキャンペーン「Japan, Thank You」に発信するためのビデオ撮り

て外出の難しい人が、だれからも支援受けられず、助けてもらえないというのにはやはり寂しい。家にながら楽しいイベントなどに参加できる機を設けたいということで電腦ひな祭りを続けている」と話す。

同キャンペーンは、東日本震災の折、世界中から支援をもらったことに対する感謝の気持ちをユーザーチームで自由に発信しようというものだ。

自宅から参加するイベント

その当時、ハワイのシニアネットは、ノルルコミュニティレッジの支援を受けていた。具体的には、同大会では、夏休みや春休みなどパソコンが使わなくなる時期にシニアや地域の人々が自由パソコンを利用できるようにしていた。

「このときの交流は大変盛り上がった。再び会って話をしたかったが、そうそうハワイには行けない。そのためパソコン通信で再会しようということになった」(近藤氏)。

「最初はゲストとして参加したが、楽しくてはまってしまった。インターネットをつないで世界中と交流することが楽しいし、女性はいくつになってもおひな祭りが好きなのもおひな祭りが好きなので。いまは元気なシニアも多いが、体の具合が悪い方でも自宅にいながらこういうイベントに参加して、1日

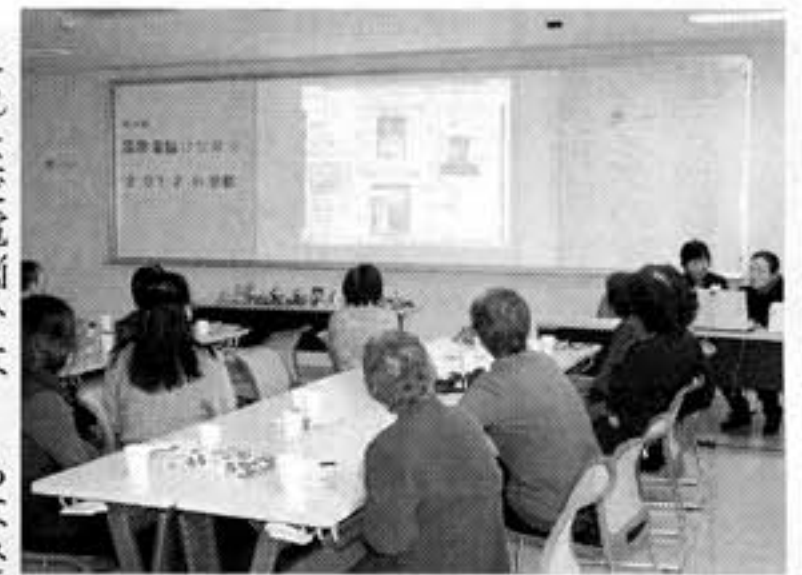
これまで電腦ひな祭りは、年1回、全国各地で催されてきたが、今年から京都を拠点に据える。ひな祭りは全国各地で行われる日本の伝統行事だが、そこで使われるひな人形は、京都産であることが、拠点を固定化させる理由だ。

ちなみに今回、会場になった伏見青少年活動センター(愛称「ふしみん」)には、ユーザーチームのスタジオがある。青少年施設としてユーザーチームスタジオを導入したのは全国初だという。

同センター所長の正木隆之氏は「番組放送は、昨年からスタートした。高校生以上

機材も貸し出ししているので、だれでも自由にユーザーチーム中継ができる。地域で活躍するさまざまな人々を紹介することで、若者たちが刺激を受けて元気をだしてくれればという思いで行っている」と話す。

例えば、伏見区にふしみんメディアパブスタジオに当初から関わってきた花パソコンの馬場次代理理事長は、「われわれは素人なので、この1年はカメラワークをどうするかなど試行錯誤を繰り返してきた。そういう意味で、放送することに意義があった。今後は番組の認知度向上、視聴者の拡大を目指していきたい」と展望を語る。



電腦ひな祭りの模様



Japan. Thank You. に投稿



ユーザーチーム番組「人財ZAKUZAKU」

シニアの集い、京都で電腦ひな祭り

なる。それが電腦ひな祭りの始まりだ。実行委員長の服部

楽しく過ごせれば、よい気分転換になると思う」と語る。

ネット放送で地域人財を紹介

割合でユーザーチーム放送「ふしみんメディアパブスタジオ」を展

上の若者たちに手伝わしてもらいながら番組制作に励んでいる。放送

は江戸時代から続く酒蔵が多いことから、青年たちが蔵人にインタ

ユー